

特集：2006年度日本数学会出版賞受賞者のことば

鳴海風氏

「出版賞受賞のことば」

伝統ある日本数学会から、『円周率を計算した男』『算聖伝』などの作品を評価していただき、こんなうれしいことはありません。

小説は人間を描くものですが、多くの場合、男女の恋物語を書きます。小説はフィクションであっても、誰もが納得できる話を書かなければ読者は納得しません。恋は美女と美男がいて初めて生まれるものではありません。大金持ちの男と貧乏な女の恋ばかりでもありません。親同士が憎みあっていたり、実は兄妹だったり、相手が不治の病におかされていたり、刑務所の中にいたり、不倫の関係だったり、いかにも許されないような条件下でも感動的な恋物語は進んでいきます。それら一つ一つは真実だからでしょう。

昨年受賞された小川洋子さんの『博士の愛した数式』の中で、博士は円周率や自然数、虚数を組み合わせたオイラーの公式の美しさに心を奪われています。

人間世界では、誰もが円周率であったり、自然数であったり、虚数といったひと言では説明できない存在だと思います。それらの人間が織りなすドラマは、たとえ千差万別であっても、小説という一つの形になったとき、オイラーの公式のように矛盾がなく美しい物語になっていけば、それは傑作として長く人々に感動を与えます。

数学者の方々のチェックは厳しいと思いますが、今後も、そういった作品に挑戦していきたいと思います。このたびは、本当にありがとうございました。

鳴海 風（作家）